

鶴岡市は合併後173世帯増 単独の三川町は244世帯増

三川町は世帯数が増加し、藤島、朝日、温海は世帯数が減少しています。旧町村に、新たな宅地開発が必要です。

三川町では、蛾眉ニュータウンや神花ニュータウンなど、住宅団地の開発を次々と進め、新しく桜木地区に37区画の分譲地を開発しています。

桜木地区は、2020年7月にオープンした子育て交流施設テオトルに隣接しており、三川町は住宅取得に最大50万円の補助も行っていきます。

藤島、朝日、温海

一方、鶴岡市の周辺部となった旧町村は、櫛引地域の下山添一里

学校のない地域に子どもはいない

自立の三川町は単独で244世帯も増加しているのに、鶴岡市全体では173世帯しか増加していません。

鶴岡市は2013年に、藤島と櫛引、温海の都市計画区域を鶴岡に統合し、2015年に、旧町村の平野部を都市計画区域に編入。市街化調整区域として住宅等の建設を抑制しました。

三川町は都市計画の線引き（区域区分）を行わず、都市計画税もありません。

藤島地域で小学校を全て廃校にし、小中一貫校1つになれば、学校のない地域に、子どもはなくなり、旧町村にこそ、ニュータウンを整備し、定住人口を増やす施策が必要です。

急激な少子化ショックで、地域の未来を見失ってはなりません。

世帯数の推移(平成17年～令和2年)				
	2005年	2020年	増減	増減率
鶴岡	33,991	34,862	871	102.6%
藤島	2,965	2,905	▲60	98.0%
羽黒	2,273	2,297	24	101.1%
櫛引	1,954	2,000	46	102.4%
朝日	1,318	1,118	▲200	84.8%
温海	2,992	2,484	▲508	83.0%
計	45,493	45,666	173	100.4%
三川町	2,088	2,332	244	111.7%

※数値は国勢調査



三川町土地開発公社の桜木地区宅地分譲図

村の四季

51

鈴木重雄（八色木）

ヒケシ（脱穀調整）

電動モーターが農作業に導入されるまでは、すべて手作業であった。脱穀はドラム缶のような木製の円筒型にY字型の釘が打ってある足踏み脱穀機を、ゴーンゴーンと勢よく回転させ、稲の籾を落とす。

次に脱粒した籾を竹で作った丸いトウシで振るい、連なっている籾は庭に広げて、餅つき杵に似た「もみゆすり杵」で打って、繋がりやをなくする。この作業を何回か繰り返して、大きな3枚の羽根のついた扇風機（チリたて機）で、籾とゴミを分別し、さらに唐箕で細かいゴミを飛ばすと、籾だけが残る。

次に籾摺臼で籾殻を除く。この臼は直径1.5位の粘土製の臼に、竹製の歯をつけたものである。廻すのが大変であったので2人がかりであった。2人向き合って回転棒を交互に引いて廻すと、臼に回りに玄米と籾殻がポロポロとこぼれ落ちる。

子守ばあさんは、「ゴンゴンひがねば魚飯食えねゴンゴン」と、背中の子どもをあやしている。

この臼を使ったのは、満州事変の始まる昭和5、6年頃までであった。その後は、岩田式籾摺機、今間式籾摺機が近代農機具として現れた。籾を上から落とし、羽根で勢いよく胴型の筒に打ちつけてミ

ミガラを除く機械である。

私も小学校高等科の頃、手伝ったことがあったが、心臓が破裂するほど苦しかった覚えがある。

この調整は昭和15年頃まで続いたが、やがて農家にも電動モーターが入り、近代的な農機具が農家を救ってくれた。

この頃、長沼上新田の板垣建設が、発動機を使って各農家に米調整や肥料用大豆の粉碎などをしていった。

農業の電化の歴史は、早坂清輔氏の『東郡電気事業ものがたり』に掲載されている。

鶴岡水力電気株式会社、明治33（1900）年に本郷村行沢から水力発電を稼働した。行沢には、庄内水力電気発祥の地として「行沢発電所記念碑」がある。

その電力を利用して、明治35（1902）年に大泉村矢馳の湯尻川に揚水機を設置し、ここに「日本農業電化発祥の地」の記念碑が建立されている（写真）。

東田川郡役所は、明治44（1911）年に水力発電所の建設検討を進め、梵字川に名川発電所を建設し、大正4（1915）年に郡事業として、農家に電力が供給された。



「青森と岩手の伝統こけし展」 9日(日)に石黒さんのトーク ギャラリー藤・午前10時30分

「青森と岩手の伝統こけし展」が1日から9日まで、東田川文化記念館ギャラリー藤で開かれています。
最終日の9日(日)は、午前10時30分から、収集家の石黒清一さんによるギャラリートークが開かれます。

数多く開催

伝統こけし展はこれまで、

- ・2010年2月に、致道博物館で「東北の伝統こけしと木地玩具」
- ・2015年9月に、「温海の木地玩具展」
- 「温海の木地玩具展」
- 「伝統こけし工人 阿部進矢の世界」
- ・2017年5月に、「遠刈田系のこけし展」
- 佐藤一夫・良子夫妻と小林定雄の世界」

・2017年9月に、「伝統こけし展」11系統の世界」

- ・2021年6月に、「山形の伝統こけし展」
- ・2021年9月に、鶴岡アートフォーラムで、K×I×Y三人展「温海の木地玩具」
- ・2022年6月に、「宮城の伝統こけし展」
- ・2023年2月4日～3月5日に、「つるおか伝統こけしの今昔」



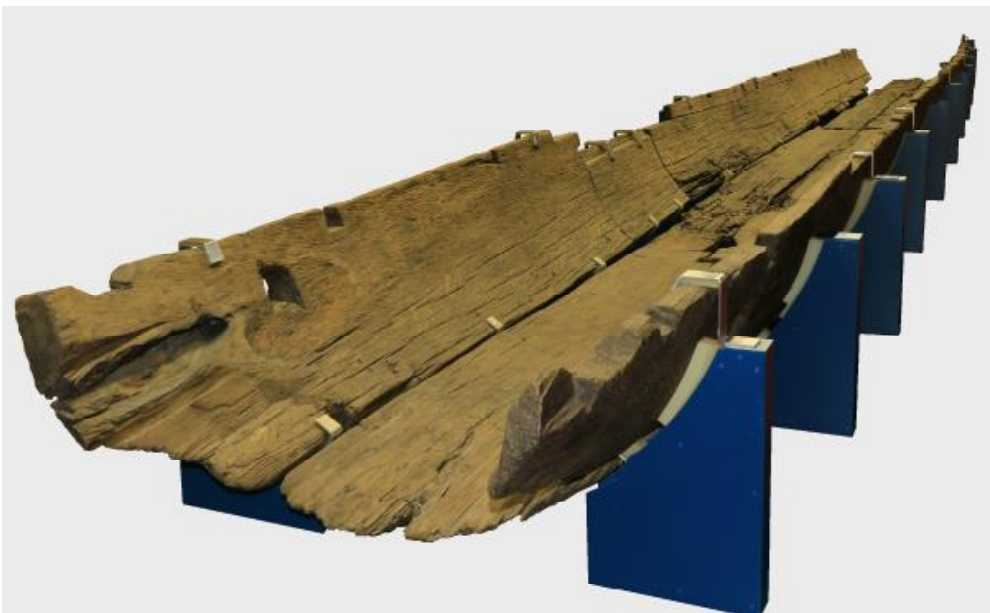
が鶴岡アートフォーラムで300展が展示され、石黒さんがゲスト・トークを行っています。
石黒さんは次回、福島・宮城をテーマに開催したいと語っています。

東田川史跡物語 東田川史跡と私ー無関心 青山 崇

私が東田川史跡の旧郡役所や郡会議事堂とまきつちり向き合うのはまだ10年ほど前である。それ以前に東田川史跡に次のような動きが

あった。
1984(昭和59)年、藤島役場新築当時は、県内の他の旧郡役所同様に、主要な部分ー玄関を残し、建築物

独木舟 (まるきぶね) (県指定有形文化財)



昭和7年(1932年)、昭和11年(1936年)の2回にわたり発掘された物で、1本の杉を2つに割り、中を手斧でくり抜いた竹割り型の舟で、長さ14.05メートル、幅1.24メートルあり、現存する単材の独木舟としては日本最大です。
年輪年代法による鑑定で、平安時代後期、保延3年(1137年)に伐採された杉で作られたことが判明しました。(鶴岡市HPから)

は町郷土資料館とする方針で他の事例と変わらないものであった。
それが、今野良和議員の質問で一転し、加藤康郎町政は検討委員会を設け再検討することになった。
修復保存補助もつき、1989年から1995年まで工事が行われ、1996(平成元)年7月1日、東田川文化記念館として開館した。

木舟などの展示などの活用が始まった。
さらに文化会館を支援する郷研サークルも誕生し、結成者の一人でもあった。
しかし文化記念館とは向き合っても、東田川史跡にまでは思いが至らなかった。ただ、焼失後再建した金閣寺は国宝ではなくミニチュアであること。ここは県文化財で修理保存工事も使える部材はすべて使っていること、柱などで例示してガイドしていた。



返却も有りだと

善進がないばかりか、悪法とまで言われる法律が次々と成立したこんな国会は珍しいとは、先月閉会した国会のことだ。言論の府の言論が無いのだ。

▲2万円をエサに国民の77%を超えたというマイナンバーカードの登録者。現に問題を起こしているから、登録者の72%が不安を抱えているとの報道。だからそのカードの返納が増えているんだって。返納の理由には、信用出来ないからだ。

▲問題点をさがし、問題点で無くする仕事をするのが国会議員だ。それが国民への責任なんだ。それに当然ながら、国民が安心して暮らせる環境を作り出すのが仕事。だから、戦争が近くならないようにするのも役目だが、共産党が出した中国と仲良くする提案に注目も無かったのかナ。
▲これも命に係わる国民皆保険制度の問題。誰でも保険証を持って行けばお医者さんに診てもらえる今の制度が、現に問題を起こしているながらも、来年秋には完全にマイナンバーに移るといふんだが。

▲ポイントがカードに入っているんじゃないから、カードを返しても大丈夫なんだってサ。だから、カードはあるがポイントがまだの人は、ポイントを貰ってから返納という事ダト。
▲いつか山新で見たのが、カードに繋がる紐付けは29本もあるとか。国からお金を貰う事なんてあるのかと思っても繋いでおけばいいだけだろうが、カードを持っていてる諸君。知らないうちに繋がったりするものはないのか？法律は動くゾ。首相の紐は米国の1本をプラスして30本？(石川)